

第1章 社会人のマナー

マナーとは「人間関係がスムーズに結ばれていくためのルール」（熊倉功夫『文化としてのマナー』岩波書店）である。社会的な行動、即ち見る人と見られる人との間の行動のルール（約束事）であって、個人の価値観や倫理観、あるいは美意識といったものは入らない。

ルールであるからには形式（守るべき型）がある。かつての日本人はその形式を身体で表現することを“心の訓練”と考えてきた。「日本人は、他者の目を意識することで、ふるまい方を心得てきた。それをひどく軽薄なことのよう考えるのは近代人の病」（熊倉功夫前掲書）であって、他者の目を意識し、守るべき型を身につけた時、マナーは心を伴ってくる。つまり、マナーには型があると同時に“社交上の心”が伴う。

因みに、エチケットとは社交上の型を意味し、人付き合いを滑らかにするための常識的な技術のことである。共感という相互の心の交流までは至らず、専ら自分自身の行いに終始する態度である。社交上の心を伴うマナーの基盤には、深い心の交わりである“共感”がなければならない。共感を身につけるにはコミュニケーション能力が不可欠である。人が互いに意思や感情あるいは思考を伝達し合うことをコミュニケーションというが、その伝達方法には言語による伝達方法（バーバルコミュニケーション）と態度や仕草による伝達方法（ノンバーバルコミュニケーション）の二つがある。

マナーとはこの二つの伝達方法を組み合わせて意思疎通を行うことである。礼儀作法という型に従って行われるため、社交上の心が入っているから、人間関係が構築し易く、潤滑油にもなる。さらには、社会の秩序を維持するための規範（暗黙のルール）ともなる。マナーが社会生活の上で重要視される所以がここにある。